

## 3連休明けです。みな元気でしょうか？…

今日は、本校の子どもたちにとっては、創立記念日も含めて3連休明けでした。

しかも、明日から5連休に入るとあって、朝の登校状態が少し気がかりだったのですが、朝、東門でいつものように学校周辺のゴミを集めたあと、登校してくる子どもたちに声をかけていると、これまでと変わらず、7時50分くらいから8時15分くらいまでの間に多くの子どもたちが元気良く、「おはようございます！」と自分から挨拶をして登校してきました。その姿を見て、すっかり安心しました。

連休の間は、ともすれば「中だるみ」で「しんどそう」「眠そう」表情で登校時刻も、いつもよりは遅くなることが多いのですが、そんな心配も豊南小学校の子どもたちにはどうやら無縁(?)だったようです。

しかも、3年生と4年生は合同遠足で万博公園、ニフレルへ朝、元気良く出発しました。お天気もよく、外でお弁当を食べるとそれはそれは気持ちがいいことでしょう。

さて、次は、明日からの5連休明けの月曜日、今日と同じように「元気な」表情で登校してくれることを願っています。

連休中は、おうちで、遠くへ行く必要はありませんが、どうか子どもたちとじっくりといろいろなお話をしてみてください。昨年までとは違った、子どもたちの新しい面に気づくことがあるかもしれません。

## 「動物介在教育」(AAE)のこと…前号からの続きです

2001年9月に『第9回人と動物の関係に関する国際会議(リオ会議)』がブラジルのリオデジャネイロで開催されました。主催は、人と動物の関係学に関心をよせる各国協会や関連団体でつくる国際組織 I A H A I O (International Association of Human-Animal Interaction Organizations)で、第8回からWHO(世界保健機構)も協賛しています。この、リオ会議で、I A H A I Oは学校におけるペット飼育やコンパニオンアニマルとの触れ合いに関するガイドラインをまとめた『リオ宣言』を発表しました。近年、犯罪の低年齢化、凶悪化は世界中で大きな問題となっています。そして心の育成に照準を合わせた教育の必要性が強く叫ばれています。そのひとつのプログラムが動物介在教育(AAE)です。そのためには介在される動物が動物福祉、動物愛護の視点からみても適切な

方法で介在し、安全に飼育されていることも重要です。そこで I H A I Oでは、そうい

った視点から、実際にAAEの取り組みを実施するにあたっての以下のようなガイドラインをまとめています。

I H A I Oでは、学校でのペットプログラムに関するすべての人と団体、すべての学校及び教師に、次のようなガイドラインを考慮に入れてプログラムを実施することを薦めています。



## I A H A I Oガイドライン

1. 動物介在教育に関するプログラムでは、教室で動物に触れることを認めなければなりません。また、学校の規則や施設によってはこれらの動物は下記のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- 校内において適切な環境のもとで飼育されている。
- 教師によって学校へ連れてこられる。
- 訪問プログラムという形態のもと、飼い主同伴で訪問する。
- 支援を必要とする子どもに介助犬として同行する。

**2. 子どもとコンパニオンアニマルに関するいかなるプログラムも下記の条件を満たす必要があります。**

a) プログラムに関する動物が

- ・安全(適正があると認められるか、きちんと訓練されていること)
- ・健康(獣医師による健康診断を受けていること)
- ・学校の環境に適応する準備ができて(たとえば、子どもに慣れている、移動に慣れている、など)
- ・適切に飼育されていること(学校でも、家庭でも)
- ・動物飼育に対して知識のある成人の管理下にいること(教師または飼い主)

**3. 上の基準を満たしたコンパニオンアニマルを介したプログラムの実施者は、教室で飼育する動物を飼う前または訪問プログラムを実施する前に、学校当局と保護者の双方に対して、動物介在教育の重要性について知らせ理解してもらうこと。**

**4. 明確な学習目標を定義する必要があります。それには、以下の事項が含まれている必要があります。**

- a) 学校のカリキュラムの様々な場面で子どもたちの知識や学習意欲を向上させること。
- b) 人間以外の生き物を尊重する心、かつそれに対する責任感を育てること。
- c) 子ども一人ひとりがそのプログラムに関っているかどうか。また、子どもによって感情の表わし方は違うということを考慮に入れること。

**5. プログラムに関する動物の安全性と福祉はつねに保障されなければなりません。**

英語からの日本語訳ですので、少し堅苦しい表現になっていますが、簡単に言うと、「動物(犬)を教育のツール(道具)として活用し、教育の普及および学習意欲を高めることを目的として行われる教育」ということになるのではないのでしょうか。

また、さらに言い換えると、犬を中心とするコンパニオンアニマルを、教育、学習の場面で介在させ、子どもたちの精神面、学習環境などに好影響を与えることにより、人のかかわりだけでは決してなし得ることのできない様々な効果、成果をあげるといえることです。

ちなみに、コンパニオンアニマルとは「伴侶動物」と呼ばれ、単なるペットではなく「人間にとって人生の伴侶」として、共に社会の中で暮らす、犬や猫、ウサギなどの動物のことをいいます。

そして、このAAEの活動に関する犬については、コンパニオンドッグ(CD)認定試験に合格していることや、もちろん、法定義務のある狂犬病予防接種はもとより、ワクチン接種、日常的に健康状態が良好に保てる環境で飼育されていること、また子どもを含め人に対する親和性、移動に対する親和性等が要求されます。

さらに、AAEプログラム実施にあたっては、段階的に進めることはいまでもありませんが、犬の毛等に対するアレルギー反応は程度も含め事前に把握しておく必要があります。

このように書くと随分と、堅苦しいもののように感じますが、決してそうではなく、まずは「学校に来たら、犬に会える」という日常をつくることからスタートです。

東京の立教女学院小学校で、AAEの実践を随分前からされていますが、そのスタートは、たった一人の登校が難しい子どもの『学校に犬がいると楽しいのに』という言葉だったと聞いています。

次回は、AAEの活動犬として予定している犬のことを書く予定です。

(彼は6歳のオスです)、今日も出番はまだまだかと(?)待っています。…



To be continued (次号に続きます)